

## 第十一章 記念平和殿ノ建設

HOK 明治四十年十月六日 在海牙都筑大使(ヨリ)  
林外務大臣宛(電報)

記念平和殿ノ建設ニ閲スル件(1)

十月十六日 後一四、五五 海牙發  
十月十七日 前一一、五五 東京着

林外務大臣 都筑大使

第一六八号

仏第一委員「コノスタン」ヨリ「カルネギー」ノ寄附ニ係  
ル平和殿ノ建設ヲ助クル為メ諸国ヨリ各其國產ノ寄附ヲ為  
サムコトヲ希望スル旨ノ決議案ヲ提出シタリ右ハ拍手喝采  
ヲ以テ可決セルカ如ク見エタントモ此略式決議ニ依ル決議  
案ノ最後議定書中ニ掲載スベキモノナルヤ否ヤリ付テハ曰  
下調査中ニテ多少ノ議論アルヘシト信バ

~~~~~

HOK 明治四十年十月十七日 在海牙都筑大使(ヨリ)  
林外務大臣宛(電報)

前同件(1)

十月十八日 後一〇、一一 海牙發  
十月十九日 前二三、四五 東京着

林外務大臣 都筑大使

第一七〇号

往電第一六八号末段國產寄附ニ閲スル件ハ之ヲ acte 4 訂  
入セサルコトトナレリ

~~~~~

HOK 明治四十年三月四日 蘭國公使(ヨリ)  
林外務大臣宛

海牙記念平和殿建設ニ閲シ通牒ノ件

附屬書 「カルネギー」基金委員長書翰(証  
文等)

Tokio, 4 mars 1908.  
No. 197.

和蘭國皇帝陛下ノ外務大臣閣下  
以書翰致啓上候陳ハ第一平和會議ハ一千九百七年十月十六日

ノ第九回總会ニ於テ全念一致ヲ以テ仏蘭西共和國委員男爵  
デツールネル、ド、コノバタン氏ノ提議ニ係ル左ノ希望ヲ  
可決セラレタル趣該會議々長ヨリ公然之通知有之候

Carnegie a adressé au Ministre des Affaires Etrangères  
à La Haye en date du 17 janvier dernier sous le  
No. 401.  
Veuillez agréer, Monsieur le Comte, les assurances  
renouvelées de ma très haute considération.

J. Lourdon.

Son Excellence  
Monsieur le Comte T. Hayashi  
Ministre des Affaires Etrangères  
etc., etc., etc.  
Tokio.

(附屬書)

(訳文等)

第四〇一號

一千九百八年一月十七日海牙ニ於テ  
「カルネギー」建造委員長

ハーン、カルネギー

同委員書記官

エス、ファン、シッテルベ

第十二章 記念平和殿ノ建設 五〇九 五一〇

八九〇

テハ其ノ意思遂行ノ為如何ナル種類ノ帮助ヲ与ヘラル、ヤ  
教示アランコトヲ希望致候

若シ建築材料（大理石、敷瓦、木材、細木材、階段欄干ノ  
如キ加工金属）又ハ裝飾材料（油絵、壁画、「ゴブラン」  
絨氈、壁紙、「モザイック」、陶磁器、銅器、釣ランプ、絵  
玻璃）ヲ寄贈セラル、カ或ハ現場ニ於テ之ヲ作製シ若クハ  
其ノ取付ヲ為サシメント欲セラル、トキハ予メ其ノ数量、  
形状、寸法並ニ必要アラハ其ノ着色及題目等ニ付キ本建造  
委員及建築技師ト協議セラレンコトヲ希望致候建築上或ハ  
裝飾上及建物ノ全體又ハ一部分ニ付キ「スタイル」ノ一致  
ヲ保維スルコト尤モ必要ナルカ故ニ有之候

若シ美術品（立像、半身像、花瓶、噴水池等ノ如キ）ヲ寄  
贈セラル、場合ニモ亦予メ協議ヲ為スノ必要可有之ト存候  
本建造委員ハ如何ナル寄贈品アルカヲ予知センコトヲ希望  
致候列国政府ニ於テハ成ルヘク速ニ平和會議ノ希望ニ関ス  
ル事項ヲ決定セラレ其ノ慈惠の所決ヲ至急実行セラレンコ  
トヲ切望致候平和殿建築費見積ノ材料タルヘキ圖面ハ目下  
作製中ニ有之候間成ルベク建築工事ノ遲延セサランコトヲ  
期待致居候 敬具

註 右原文省略

六月十一日 後四、三五発 在米 高平大使 林外務大臣 第八三号

第二回平和會議ニ於テ議決セル平和殿ノ建設ヲ助クル為メ  
國產寄附方希望ノ件ニ關シテハ蘭國政府ヨリ既ニ任國政府  
ニ照会アリタル筈ノ処任國ニ於テハ右ニ關シ如何ナル取計  
ヲナス筈ナルヤ聞合セ電報アリタシ  
右本大臣ノ訓令トシテ小村大使ニ転電シ同大使ヨリ在欧各  
大使ニ転電セシメラレタシ

以書翰致啓上候陳者三月四日附貴翰第一九七号ヲ以テ「カ  
ルネギー」建造委員長ヨリ蘭國皇帝陛下ノ外務大臣閣下宛  
書翰第四〇一号写三部御送付相成右正ニ領收致候右書翰写  
記載ノ主旨ハ帝國政府ノ贊意ヲ表スル所ニ有之候處委細ノ  
点ニ付テハ目下尙考究中ニ有之候ニ付追而何分ノ儀可及御  
通牒候間右様御承知相成度此段御回答旁本大臣ハ茲ニ重テ  
閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

五一 一 明治廿二年六月十六日 露國駐劄落合臨時代理  
大便ヨリ 林外務大臣宛（電報）

平和殿資材寄贈ニ關スル任國ノ意向回報ノ件（一）

六月十六日 後九、三五 東京着

林外務大臣 落合代理大使

第九〇号

高平大使宛貴電第八三号ニ關シ露國政府ニテハ蘭國ヨリノ  
照会ニ接シ目下詮議中ニテ未タ決セス vases ニテモ贈ラ  
ンカトノ評議アル由ナリ

五〇九 明治廿二年六月廿一日

在外歐米各大使宛（電報）

ノ件

海牙平和殿裝飾資材寄贈方ニ付任國ノ振合照会

六月十一日 後四、三五発 在米 高平大使 林外務大臣

第八三号

第二回平和會議ニ於テ議決セル平和殿ノ建設ヲ助クル為メ  
國產寄附方希望ノ件ニ關シテハ蘭國政府ヨリ既ニ任國政府  
ニ照会アリタル筈ノ処任國ニ於テハ右ニ關シ如何ナル取計  
ヲナス筈ナルヤ聞合セ電報アリタシ  
右本大臣ノ訓令トシテ小村大使ニ転電シ同大使ヨリ在欧各  
大使ニ転電セシメラレタシ

五一〇 明治廿二年六月十五日 仏國駐劄栗野大臣ヨリ  
蘭國公使宛 林外務大臣（電報）

平和殿裝飾資材ノ寄贈ニ關スル件

明治四十一年六月十五日發達

送第一七号 在本邦 蘭國公使 林 大 臣

五一二 明治廿二年六月十六日 仏國駐劄栗野大臣ヨリ  
林外務大臣（電報）

前同件（二） 六月十八日 後二、二五 巴里發

六月十八日 後二、二五 巴里發

本省着

第三二号 林外務大臣 栗野大使

高平宛貴電第八三号ニ關シ當國ニ於テハ未タ確定シタリト  
ハ言ヒ難キモ十分ノ九迄ハゴブラン製壁掛寄贈ノ見込ニシ  
テ其代価ハ數十万フランニ上ルベシト言ヘリ  
平和殿ニ國產寄贈ノ發起者タル「デスマウルネルドコンス  
タン」男ノ話ニ依レバ日本ハ銅製階段ノ手摺ヲ寄附シテハ  
如何日本ノ銅器ハ甚ダ良品ナリト言ヘリ尙ホブラジル又ハ  
アルゼンチンナドヨリ右階段用ノ大理石ノ寄附アルベシト  
言ヘリ右御参考迄ニ申添ユ

五一三 明治廿二年六月十九日 米國駐劄高平大使ヨリ  
林外務大臣（電報）

前同件（三）

Washington,  
Rec'd., 19/6/08., 1.30 p.m.

Hayashi,  
Tokio.

No. 98. In reference to your telegram No. 83 Secretary of State intimate Netherlands Government substantially to the effect that in as much as citizen of United States contributed practically entire structure United States Government do not feel called upon to make any further contribution.

Takahira.

五一四 明治四十一年六月廿一日 境内田大臣宛(電報)  
前同件(四)

六月廿一日 後九、三五 維也納  
林外務大臣

内田大使

第三一號

在米高平大使宛貴電第八三号ニ關シ當國政府ハ蘭國駐在澳國公使ヲシテ最適切ト思考スル品物ヲ報告セシムルコトニ

Hayashi,  
Tokio.

No. 54. In reference to your telegram No. 83 to Zai Bei Taishi German Government intend to take part by presenting an octagon? portal of wrought iron.

Hioki.

五一七 明治四十一年六月廿一日 英國駐劄小村大臣宛(電報)  
林外務大臣(電報)

前回件(七)

London,  
Rec'd., 3/7/08., 5.20 a.m.

Hayashi,  
Tokio.

No. 55. In reference to your telegram No. 84 (3?) transmitted by the Japanese Ambassador at Washington I am informed by Foreign Office that contribution of Great Britain to Palace of Peace will consist of four large upper windows of stained glass of Hall Justice. It was suggested by Committee of Carnegie Foundation and will cost about 2,500 pounds.

Komura.

ナリ居ルモ平和殿ノ設計ニ変更ヲ來シタル由リテ未タ右報告ニ接セストノコトナリ

五一五 明治四十一年六月廿一日 駐伊龜山代理大臣(電報)

前同件(五)

六月廿一日 後〇、三五 羅馬發  
林外務大臣

龜山代理大使

第一〇號

高平宛貴電第八三号ニ關シ當國政府ハ大理石ノ柱ヲ寄附スルコトニ決シ蘭國政府へ回答セリ価格二万五千「リーハ」乃至三万「リーハ」位ノモノヲ寄附スル見込ナリト謂フ

五一六 明治四十一年六月卅日 独國駐劄日置代理大臣(電報)  
林外務大臣(電報)

前同件(六)

Berlin, 30/6/08., 2.40 p.m.  
Rec'd., 1/7/08., 2.30 a.m.

五一八 明治四十一年六月六日

松岡農商務大臣(連名) 林外務大臣(ヨリ)  
松岡農商務大臣(ヨリ)

客年海牙ニ於テ開催セラレタル第一回平和會議ハ米国人「カルネギー」氏寄附ニ係ル平和殿ノ建造ニ關シ十月十六日ノ第九回総会ニ於テ全会一致ニ以テ仏國委員男爵「カルネル・ド・コンベタン」氏ノ提議ニ係ル左ノ希望ヲ

送第四八四號

牧野文部大臣(連名)

大臣

可決致シ候  
本余議ハ海牙條約ノ記名國政府カ各國ノ產物ヲ以テ善意  
ト與望ノ表彰タル平和殿ノ建造スルタゞ建築技師ト協議  
ノ上建築材料、裝飾品及其國品ノ精ラ代表ズヘキ美術品  
ヲ寄贈シ以テ其建造ヲ輔助セラレントヲ希望ベ  
右付在本邦蘭國公使ヨリ本年三月四日附ヲ以テ右「カル  
ネギー」建造委員長ヨリ蘭國外務大臣宛ノ書翰写送付ノ上  
該委員長ニ於テ各國ヨリ如何ナル寄贈品アルヤア予知シ度

希望ナル趣別紙写ノ通申越候ニ付不取敢同公使ニ対シ帝国政府ニ於テハ右ニ閑シ目下尙考究中ナルカ故ニ追テ何分ノ儀可及通牒旨回答致置候尙右國產寄贈方ニ閑スル諸大國政府ノ取計振ニ付在外本邦使臣ヲ通シ各任国ノ意向問合セ候

處其結果左ノ通ニ有之候就テハ帝国政府ヨリハ如何ナル國產ヲ寄贈スルコトナスベキヤ御詮議ノ上何分ノ義御回報相煩度右及御照会候也

(一) 仏蘭西 多分「ゴブラン」製壁掛(価數十萬法)ヲ寄贈スルコトトナルヘシ

(二) 露西亞 目下詮議中(或ハ花瓶(Vases)ヲ贈ルコトトナルヘシト云フ)

(三) 北米合衆國 米国ハ殆ト建物全部ヲ寄贈ジタルニ均キモノナルカ故ニ此上何等ノ寄附ヲモナザルヘシ

(四) 埃太利 蘭國駐在埃太利公使ヲシテ最適當ト思考スル物品ヲ報告セシムル筈

(五) 伊太利 大理石ノ柱(価一万五千「リーラ」乃至三万「リーラ」)ヲ寄附スベキ旨已ニ蘭國政府へ回答済

(六) 独逸 鎏鍍製ノ八角形出入口ヲ寄贈スル筈

(七) 英吉利 「ホール、ジャステイズ」(正義ノ間)ニ取付

文部大臣官房文書課美專一五号

平和殿ニ寄贈スヘキ國產ニ閑シ回報ノ件  
附屬書 正木美術學校長ノ報告写

曩ニ蘭國海牙府平和宮へ寄贈品ノ件ニ付御照会ノ次第モ有之東京美術學校長正木直彦ラシテ貴省政務局長及農商務省商品陳列館長ト商議ラ遂ケシメ候處別紙写ノ通報告書提出致候右ハ相當ノ計画ト被存候間右ニ依リ可然御取計相成度此段及御回答候也

明治四十一年十月八日

文部次官 岡田良平(印)

外務次官 石井菊次郎殿

(附屬書)  
報告書

和蘭國海牙府ニ建築中ノ平和宮裝飾用トシテ帝国政府ヨリ

寄贈セラルヘキ國產撰択方ニ付嚮ニ外務大臣ヨリ文部農商務兩省大臣へ意見開合有之趣ヲ以テ小官儀御下命ニ依リ本省ノ委員トシテ外務省委員倉知政務局長農商務省委員同省商品陳列館長鶴見左吉雄ト外務省ニ於テ会同協議ヲ遂ケ左記ノ物品ヲ以テ最モ此目的ト恰當スルモノトノ意見一致致

候  
一、金地花鳥模様織出綴錦  
幅十五米突堅四米突半  
価格凡五萬円

製作者、帝室技芸員、川島甚兵衛

右之件委員希望ノ通政府ニ於テ御決行相成候儀ニ候ハハ製作方御下命ニ先チ平和宮建築委員ニ左之件々先以御問合相成度候

一、帝國政府ヨリ前記織物ヲ寄贈シタルトキハ平和宮ニ於テ何レノ室ニ備付ラルヘキヤラ豫メ指定セラレタキコト  
ト  
前項指定ノ節其室ノ平面及回壁ノ詳細図ヲ廻付アリタキ

一、平和宮ニ於テ前記織物ヲ全幅ノ儘壁掛トシテ使用セラ  
コト  
前項指定ノ節其室ノ平面及回壁ノ詳細図ヲ廻付アリタキ

クヘキ模様ガラスヲ以テ作レル大ナル呼吸<sup>イ</sup>抜<sup>キ</sup>窓(価二千五百磅)ヲ寄附スル予定

五一九 明治四十年十月八日

岡田文部次官宛

平和殿ニ寄贈スヘキ國產ニ閑シ回報ノ件

附屬書 正木美術學校長ノ報告写

文部大臣 小松原英太郎殿

東京美術學校長 正木直彦

明治四十一年九月三十日

五二〇 明治四十二年十一月三日 蘭國駐劄佐藤公使ヨリ  
小村外務大臣宛

平和殿へ寄贈ノ綴錦ニ閔スル件(一)

公第四五号

十二月廿一日接受

本年十月十二日附送第四九号ヲ以テ御申越相成候當國へ建築セラルベキ平和殿へ國產寄贈方ニ閔シ御來示ノ件々其筋ヲ經テ同殿建築委員へ逐一及照会置候處本日建築委員長ナル「カルネベック」氏自身來館ノ上日本ヨリ寄贈相成ルベキ國產綴錦ハ定メテ精巧美麗ナルモノナルベクト期待シ之ヲ同殿評議委員会室(Sale du Conseil administratif)ノ壁へ張付定着セシムルコトニ略々決定致候但タ同室ノ廣狭其他ニ就テハ尙ホ數週日ヲ經ザレバ確答難致旨ヲ述べ且ツ

前述ノ通り同室ノ廣狭ハ未タ確定不致候ヘトモ日本ヨリ寄贈セラルベキ綴錦ハ相成ルベクハ御來示ノ幅十五米突ヨリ尙ホ少シク長マラレナバ幸甚ナリ尙ホ委細ハ確定ノ上通知可致旨申述候ニ付キ此段不取敢申進候 敬具

明治四十一年十一月三十日

在和蘭 特命全權公使 佐藤愛麿(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

シ其後本年一月二十六日發電第三五号ヲ以右綴錦ハ六枚ニ製造シ貰受度旨同殿建築委員長ノ希望並ニ右六枚ノ寸法ヲ報告シ繪圖面等ハ後ニ御送付可致旨申進候處本日同委員長再ヒ來館ノ上綴錦ヲ張付スベキ評議委員会室ノ建築圖ヲ交付相成候

帝国政府ヨリ寄贈相成ルベキ綴錦ヲ張付スベキ場所ヲ圖面ニヨリテ示セバ本圖面ニ於ケルA及Aノ壁並ニC、C、B及Bノ壁合計六ヶ所ニシテ其大サハ既電ノ如ク

堅四米突五十珊ニ

横四米突八十珊ノ

堅四米突五十珊ニ

横二米突七十珊ノ

モノ四枚

ニ候

尤モ右張付ノ場所ニ閔シテ過日委員長ノ口陳ニ基キ電報致置候處右ハ同氏ノ考ヘ違ヒノ由ニテ實際張付ノ場所ハ別紙

繪面ニ指定セル如クニ候猶又縁ノ有無何レヲ可トスルヤハ

當地當局者之ヲ決定スルニ苦ミ候ニ付全ク本邦美術家ノ方寸ニ一任致度トノ事ニ候但シ既電ノ如ク此ノ縁ヲ付セラル、場合ニハ縁ノ幅ハ必ラズ上述寸法内ニ含マル、ヲ要候趣ニ候且又別紙委員長來信ニモ記載有之候通り該品ハ可成

追テ聞ク処ニヨレバ平和殿外部建築落成迄ニハ今ヨリ凡ソ三箇年ヲ要シ其上内部ノ裝飾ニ尙ホ一層長日月ヲ要スル見込ノ由ニテ本邦ヨリノ寄贈品モ隨テ速成ヲ要セザル由ニ候又因ニ付言スレハ仏國ヨリハ「ゴブラン」伊國ヨリハ「マルブル」石英國ヨリハ窓ガラス米國ヨリハ彫刻物諸威ヨリハ花崗石ヲ寄贈スル由ニシテ清國ヨリハ未タ何等申込無之義ニ候

五二一 明治四十二年三月十九日

蘭國駐劄佐藤公使ヨリ

平和殿へ寄贈ノ綴錦ニ閔スル件(二)

公第一二号

三月十一日接受

明治四十二年二月十九日

在蘭國 特命全權公使 佐藤愛麿(印)

外務大臣伯爵 小村寿太郎殿

昨年十月十三日附送第四九号ヲ以テ御申越相成候當地へ建築相成ルベキ平和殿へ綴錦寄贈ノ儀ニ就テハ同年十一月三十日附公第四五号ヲ以テ同品ハ同殿評議委員会室ノ壁ニ張付スルコトニ決定相成候趣ノ同殿建築委員長ノ回答ヲ申進

向フ四箇年ニ出来上リ候様御配慮ヲ仰キ候

右別紙繪圖面ヲ添ヘ申進候 敬具

追テ別紙繪圖ハ同時別封ヲ以テ及御送付候此段申添候也

註 別紙繪圖面附屬書省略

五二二 明治四十三年四月三日 小村外務大臣ヨリ  
小松原文部大臣、兩大臣宛(各通)

平和殿ニ寄贈ノ國產綴錦製作ニ閔スル件

附屬書 川島甚兵衛ヘ文通シタル書翰写

明治四十二年四月二十八日付

四月三十日達済

送第六一號

小松原文部大臣

送第二七六號 (各通)

小村大臣

帝国政府ヨリ海牙ニ於ケル平和殿建設ノ為メ寄贈スベキ國產綴錦ノ件ニ閔シ是迄屢次及御通牒置候次第有之候處今回當省次官ヲ以テ貴省次官ニ御協議為致置候趣旨ニ依リ別紙

写ノ通リ川島甚兵衛ニ通告致置候間右様御承知相成度此段申進候也

## (附屬書)

明治四十二年四月二十八日達済

外務大臣

在蘭佐藤公使宛

小村大臣

拝啓平和殿建設ノ為我国ヨリ寄贈スヘキ國產ニ付テハ過般來政府ニ於テモ夫々詮議中ニ有之候處今回別記花鳥模様織出綴錦ノ壁飾ヲ寄贈スヘキコトニ相定メ之カ為要スヘキ経費ニ付キ次期議会ニ協賛ヲ求ムル筈ニ有之候就テハ右協賛ヲ得タル上ハ綴錦ノ製作方ハ之ヲ貴下ニ依嘱致度考ニ御座候間右御舍相成度此段申進候也

## 別記

一、綴錦、金地花鳥模様壁張地堅四米突五十珊瑚幅四米突八十珊瑚ノ分二枚、堅四米突五十珊瑚幅二米突七十珊瑚ノ分四枚

一、製作期限四ヶ年

一、代金 八萬円

五二三 明治四十三年七月三日 小村外務大臣ヨリ  
蘭國駐劄佐藤公使宛

平和殿中我ガ寄贈綴錦備附室ノ構造ニツキ問合  
ノ件

明治四十三年七月二十二日発遣  
送第三号

平和宮へ寄贈ノ綴錦ハ目下京都川島甚兵衛ニ於テ製作準備中ノ処製作上参考ノ為メ必要ナル趣ヲ以テ右綴錦ヲ使用スヘキ室ニ付左記部分ノ設計（使用材料共）色彩等承知致度旨今回同人ヨリ申出候ニ付成ルヘク詳細御取調ノ上早便御回報相成度此段申進候 敬具

## 記

一、天井

一、窓

一、床、敷物ヲ用ユルトキハ其地質、模様、色彩及其掛方ノ式共

一、窓硝子

一、扉

一、腰張

一、暖房設備、但室内ニ顯ル、場合ニ限り

然御取計相成候様致度、同委員長來翰写並図面三枚相添へ此段申進候 敬具

## ノ件

附屬書 「カーネギー」基金委員長書翰（訳文写）

（附屬書）  
第五五五号

一九一〇年十月十日海牙ニ於テ

「カールネギー」寄贈基金委員長  
ヴ・ハ・ン、カールネベク手署

帝國公使 佐藤愛麿閣下

拝啓陳者去ル八月三十一日附貴信ヲ以テ御来示相成候貴政府ノ希望ニ対シ可能のノ満足ヲ与フル為メ貴政府寄贈ノ美麗ナル壁張織布ヲ装置スヘキ一室ノ図面別紙三枚茲ニ添送スルノ榮ヲ得候

第一 天井ハ圓面ニ示スカ如ク紫香木ト繕子木トヲ以テ造作スヘキモノトス

第二 窓ノ位置、高サ及幅ハ圓面ニ示ス所ノ如シ

平和宮ニ寄贈ノ綴錦製作上参考ノタメ必要ナル趣ヲ以テ右備附室ノ設計色彩等取調回報可致旨本年七月二十二日附送第二三号貴信ヲ以テ御申越相成敬承早速同宮建築委員長ニ對シ及照会置候處本月十日附ヲ以テ別紙ノ通回答ニ接シ候間右写茲ニ及御送附候猶ホ同宮建築技師研究ノ結果ニ拠レバ既ニ決定ノ綴錦六枚（客歲二月十九日附公第一二号參照）以外ニ窓ノ上部ニ備附クベキ小形綴錦三枚（内一枚ハ堅八三三「ミリ米突」二枚ハ堅八三三「ミリ米突」）必要横七米突六六珊瑚ノ分二枚ハ堅八三三「ミリ米突」）必要ナル趣ヲ以テ右寄贈方帝国政府ニ於テ承諾セラレ候ハゞ無此上仕合ニ付右表懸望ノ旨同委員長ヨリ依頼申越候ニ付右可

第四 窓硝子ハ白色透明ナルモノヲ使用スト雖モ窓ノ上部ニハ壁張織布ト調和スヘキ着色ヲ以テ簡単ナル裝飾ヲ施スヘキモノトス

第五 戸扉ノ形状及地位ハ圖面ニ示ス如クナルカ其材料ニハ紫香木ヲ使用スヘキモノトス

第六 壁周囲ノ裝飾ニハ同材料ヲ用ユヘシ

第七 板間ニハ紅色ヲ主トスル土耳其格製ノ大幅舗物ヲ使用スヘキモノトス

第八 煙室器ハ窓ノ下ニ据附ケ而シテ青銅ノ外覆ヲ以テ成ル可ク之レバ包蔽スヘキモノトス

前記各項ノ説明ハ壁張織布製造人ノ参考上益スル所アランコトヲ期待致候

一九〇九年二月十九日附拙簡及之ニ添附シタル室内圖面ニハ室ノ三方ノ壁ニ壁張織布六枚ヲ裝置スルノ設計ヲ陳述且ツ指定致シ置候処其後一層周密ナル研究ノ結果我建築技師ハ前記拙簡所載ノ壁張織布六枚ノ外尚ホ小巾ノ壁張織布三枚(内一枚ハ幅七米突六六高サ〇、八三三、二枚ハ幅三米突二六高サ〇、八三三)ヲ茲ニ添付セル圖面ノ一枚ニ示スカ如ク窓ノ上部ニ裝置スルノ必要ヲ認メ候  
右ノ請求ハ平和館ニ対スル貴國ノ分担ヲシテ稍ヤ少シク増

日付公信ヲ以テ右之次第本大臣ニ申出候依テ考查致候処同

室内ノ大部分ヲ我寄贈品ニテ裝飾シ僅カニ窓ノ上部ノミニ他国品ヲ用ユルカ如キハ遺憾之至ニ付試ミニ當業者ヲシテ

費額ヲ見積ラセ候處別紙写之通金九千五拾円ヲ要スル趣ニ

有之候就テハ右金額ヲ明治四十五年度豫算ニ計上請求之事

ニ取計度右ニ御異議無之候ハ、其積ニテ委員長ニ回答セシ

メ置候事ニ取計度候間至急何分之義御回答相成候様致度別紙写相添此段及御協議候也

(附屬書)

直 積 書

一 綴錦地花鳥模様窓上壁張地

堅 八三三「ミリ米突」武枚  
横 七米突六六高  
右毫枚ニ付金額五千參百円也

一 右 同

堅 八三三「ミリ米突」武枚  
横 三米突六六高  
右毫枚ニ付金毫千八百五拾円也  
合計金九千円也

外ニ金五拾円也 梭造運賃

加セシムルモノナリト雖モ貴國政府ノ異議ニ遭遇スルカ如キナカラソコトヲ切ニ希望致候次第ニ有之候此段得貴意候敬具

五二五 明治四十三年十二月七日 小村外務大臣ヨリ

大藏大臣宛

附屬書 右調製見積書

明治四十三年十二月十七日発遣

送第六八九号

大藏大臣宛

大 臣

蘭国海牙平和殿ノ建造ヲ助クル為メ帝國政府ヨリ金地花鳥模様織出綴錦六枚寄贈ノ件ニ關シテハ曩キニ御協議ノ上之ニ對スル豫算ヲ得目下製作中ニ有之候處猶ホ同殿建築技師研究ノ結果ニ拠レバ前記綴錦六枚ノ外窓ノ上部ニ備附クヘキ小形綴錦三枚(内一枚ハ堅八三三「ミリ米突」二枚ハ堅八三三「ミリ米突」)必要ノ趣ヲ以テ右寄贈方帝國政府ニ於テ承諾セラルレハ無此上仕合ニ付右懇望之旨同殿委員長ヨリ我在蘭公使ニ申越候由ニテ同公使ヨリ去十月二十一

右之通リニ御座候也

明治四十三年十二月十三日

川島甚兵衛(印)

外務省御中

五二六 明治四十四年十二月二日 蘭国駐劄佐藤公使ヨリ  
明治四十四年十二月二十日 内田外務大臣宛

平和殿寄贈綴錦製作取急ギ方件

公第三三号

明治四十五年一月八日接受  
外務大臣 内田康哉殿

平和殿ノ建築工事着々進捗シ明後年夏ヲ以テ落成式ヲ挙クル豫定ノ趣ニ候處帝国政府ヨリ同宮ニ寄贈ノ綴錦ヲ使用スベキ評議会室ノ工事モ亦意外ニ進ミ居リ此上ニ綴錦ヲ備附ケザル内ハ工事ヲ進行セシメ難キ模様ノ由ニ有之可成速力ニ之ヲ受領致度ニ付其製作ヲ出来得ル限り取急カレ候様致度旨「カルネギー」基金委員會長ヨリ申出テ候間至急何分

ノ御回報相成候様致度右來翰写相添へ此段申進候 敬具  
註 附屬書省略 尚右ノ次第直ニ製作者へ照会アリ

五二七 明治四五年三月十六日 内田外務大臣ヨリ  
蘭国駐劄佐藤公使宛

平和殿寄贈綴錦出来上リ時期ニ関スル件  
明治四十五年一月十六日達清

送第三号

蘭国 佐藤公使宛

大 臣

客年十二月二十日付公第三三号ヲ以テ平和殿ヘ寄贈ノ綴錦  
製作方之義ニ付御申越之趣了承致候右御来示之趣篤ト製造  
者ニモ相談シ充分取急キタル出来見込ノ時期相尋候處今日  
ヨリ充分手配之上出来得ル丈ケ取急キ製織致候トモ最初注  
文ノ分ハ来年六月限追加注文ノ分ハ同年九月中旬出来ノ見  
込ナル趣ニ有之又之レガ運送方ニ就テモ西比利亜線ニテハ  
貨物運送ノ取扱不致趣ニ有之候ニ付テハ特ニ其運送方交渉  
相試可申積ニハ有之候得共若シ汽船便ニ依リ運送スルモノ  
ト致候トキハ本邦ヨリ貴地着迄猶約二ヶ月位ヲ要スヘク候  
御承知ノ通リ本綴錦ハ列國ニ対シ帝国ノ精華ヲ示スベキ精

帝国政府ヨリ平和宮殿ヘ寄贈ノ綴錦製作出来見込時期ニ開  
シ去月十六日附送第三号貴信ヲ以テ御申越之趣ハ直チニ先  
方ヘ通シ置キ猶ホ略図調製方ニ就キ其意嚮及問合候處本日  
附書簡ヲ以テ右略図（色彩ヲ施シタルモノ）希望ノ旨回答  
有之候ニ付遲クトモ来年五月迄ニ御送附方御取計相成候様  
致度此段御回答申進候 敬具

註 右直ニ製作者ヘ照会、縮尺彩色十分一ノモノヲ  
製作シテ五月十一日発送セリ

甲 号

La Haye, 21 juin 1912.

Monsieur le Président,

L'inauguration du Palais de la Paix aura très proba-

blement lieu en été de l'année suivante. Le Comité des Directeurs de la Fondation Carnegie fait tous ses efforts pour arriver à ce résultat.

Le moment est maintenant venu pour convenir des bases d'un arrangement entre le Conseil Administratif de la Cour Permanente d'Arbitrage et le Comité de la Fondation concernant l'usage du Palais par la Cour. Le Comité propose les suivantes:

D'une part la Fondation meublera convenablement le Palais et mettra à la libre disposition du Conseil Administratif toute la partie du Palais destinée à la

五二九 明治四五年三月一日 蘭国駐劄佐藤公使ヨリ

平和殿維持費各國政府分担額ニ關シ「カルネギ  
ー」基金委員会ヨリ提議ノ件

附屬書一 右提議

二 右ニ關シ常設仲裁裁判所評議會  
ノ通知

七月十一日接受

公第一七号

明治四十五年七月一日

在蘭 特命全権公使 佐藤愛麿（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

第十一章 記念平和殿ノ建設 五二九

巧ナル美術品ノ事トテ其職工ノ數モ少ク強イテ其製造ヲ取  
急カシムルトキハ其出来栄ニ差響クヘキ虞有之候ニ付前記  
ノ期限ヲ早ムルコトハ至難ノ義ニ有之候間右ニ御承知相成  
先方へ可然御回答相成候様致度尤モ御申越ニ依レバ「……  
評議会室ノ工事モ亦意外ニ進ミ此上ヘ綴錦ヲ備付ケザル内  
ハ工事ヲ進行セシメ難キ模様ノ由ニ有之」云々ト有之候得  
共右ハ装ヒ付クベキ綴錦ト他ノ裝飾品又ハ天井壁等ノ色彩  
配合等ノ関係ヨリ工事ヲ進行セシメ難キ義ニモ有之候ハ、  
略図ニテモ調製セシメ送付致候ハ、幾分之便宜ニハ相成間  
敷哉其邊ノ關係先方へ御打合折返御回報相成度此段併セテ  
申進候 敬具

五二八 明治四五年三月二十六日 蘭国駐劄佐藤公使ヨリ  
平和殿寄贈綴錦略図模様請求ノ件

公第五号

明治四十五年三月二十六日

在蘭 特命全権公使 佐藤愛麿（印）  
外務大臣子爵 内田康哉殿

Cour qui n'aura qu'à entrer en possession, et aura aussi le libre usage de la bibliothèque, ainsi que du parc et des jardins.

La Fondation prendra à sa charge:

le maintien en bon état et l'assurance de l'édifice, ainsi que l'entretien du parc et des jardins, tous les frais de la bibliothèque, y compris l'achat des livres tant pour la première installation que pour le développement annuel, le catalogue, la reliure, l'administration, le service, le chauffage et l'éclairage, et tout le personnel, de manière que la Cour en aura la libre jouissance sans avoir à supporter des dépenses.

La Fondation remplira ses engagements largement et de façon à répondre à la dignité de la Cour d'Arbitrage installée au Palais de la Paix.

Pour pouvoir le faire la Fondation demande, d'autre part, au Conseil Administratif une contribution annuelle de 49,504 florins qui ne représente qu'environ la moitié des frais qu'elle aura à supporter. Répartie entre les Puissances cette contribution n'entraînera pour chacune d'Elles qu'une cotisation relativement minime (soit 104 florins par unité).

Le Comité qui a dès maintenant à prendre des

mesures importantes pour une bonne exécution de cet arrangement, serait reconnaissant au Conseil Administratif de vouloir bien lui faire connaître le plus tôt possible, si ses propositions sont agréées, et a l'honneur de Vous prier Monsieur le Président, de vouloir bien, à cette fin, les soumettre au Conseil.

Le Comité des Directeurs de la Fondation Carnegie,

VAN KARNEBEEK.

A. F. DE SAVORNIN LOHMAN.

H. H. DE BEAUFORT.

L. H. RUYSENNAERS.

PATIJN.

Son Excellence

Le Président du Conseil Administratif de la Cour Permanente d'Arbitrage.

(封函)

一九一一年六月廿一日

海牙「カーネギー」基金委員会

カルネギー

カーネギー

カーネギー

基金委員会於ハ平和宮殿内ノ設置セラル、仲裁々判所ノ威儀ノ相応スヘキ様寛大ニ其ノ約ヲ實行ベシ

如上ノ實行ヲ遂タル為メ基金委員会ヘ又一方ニ於テ評議会ノ每年四萬九千五百〇四「トロハ」ノ出捐ヲ要求ベ

而シテ是レ基金負担ニ帰スル費用ノ半額ニ過キスヤラニ各國ノ分ナ充ツシム比較的小額(乃チ一単位)一〇四「トロハ」ノ分担額ナニ

委員会ヘ今日ヨリシテ本取極ノ實行ニ關シ重要ナル措置ヲ執テサルカラサルノ以テ評議会ヨリ基金委員会ニ對シ如上

提議ノ諾否可成速ニ回答アラハコト並ニ議長閣下ニ向テ  
評議会ノ本提議ヲ提出アラハコムト端

(附屬書)

Bureau International

De La

Cour Permanente D'Arbitrage.

le 29 juin 1912.

Monsieur le Ministre,

D'après les instructions du President du Conseil Administratif, j'ai l'honneur de faire parvenir ci-joint à Votre Excellence copie d'une lettre du Comité des

Directeurs de la "Fondation Carnegie".

Les propositions du Comité concernant la participation des Gouvernements aux frais que la Fondation prendra à sa charge par rapport au Palais qui sera mis l'année prochaine à la disposition de la Cour

Permanente d'Arbitrage, seront mises à l'ordre du jour dans une séance du Conseil Administratif dans le courant du mois d'octobre.

En même temps j'ai l'honneur de Vous informer que le budget pour l'année 1913 concernant les dépenses du Bureau International de la Cour devra nécessairement être augmenté.

Le projet du budget sera communiqué au Conseil Administratif dans le courant du mois de novembre. Veuillez agréer, Monsieur le Ministre, les assurances renouvelées de ma très haute considération.

(signé) Michiels Van Verdunnen.

Secrétaire général de la Cour Permanente d'Arbitrage.

Son Excellence

Monsieur AIMARO SATO, Envoyé Extraordinaire et Ministre Plénipotentiaire de S. M. l'Empereur du Japon.

(右訳文)

一九一一年六月二十九日

常設仲裁々判所萬國事務局ニ於テ  
常設仲裁々判所書記官長  
ミシル・フラン・ベルチニア

日本国特命全権公使 佐藤愛麿閣下

以書翰致啓上候陳者評議会議長ノ訓令ニ基キ別紙「カーネギー」基金委員会ノ書翰写茲ニ閣下ニ致御移牒候

明年ヨリ常設仲裁々判所ノ使用ニ供セラルヘキ平和宮殿ニ  
関シ右基金ヨリ支払フヘキ費用ニ加担スヘキ各國政府ノ分担ニ閣ブル委員会ノ提議ハ十月中ニ評議会ノ口程ニ上ル  
キ旨ニ有之候

猶裁判所内ノ萬國事務局ノ費用ニ閣スル一九一三年度ノ豫算ハ必定増額ヲ免レサルヘク候ニ付右豫メ及御通知候豫算案ハ十一月中ニ評議会ニ通知セラルヘク候  
本職ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候 敬具

五百一〇 大正元年八月廿六日 内田外務大臣(ヨリ)

蘭國駐劄信夫臨時代理  
公使宛

公第三九号  
大正元年十月十七日

在蘭 外務大臣子爵 内田康哉殿

在蘭 臨時代理公使 信夫淳平(臣)

目下工事中ノ平和宮殿ヲ仲裁々判所ニ引渡後ノ維持費分担法ニ關シ「カーネギー」基金委員会ヨリ提議ニ次第有之仲裁々判所評議会ニ於テ本年十月中旬開キ右ノ提議ヲ議

事日程ニ上ス答ナル旨常設仲裁々判所書記官長ヨリ申致アリタル趣客月二日附公第一七号貴信ヲ以テ御上申相成致了

承候本件ニ關シ帝国政府ノ關スル限ニ於テハ維持費分担方ニ異存無之候間適當ノ時機ニ於テ其旨先方ヘ御回答相成度此段及回訓候 敬具

五百一一 大正元年五月廿四日 (ヨリ)

蘭國駐劄信夫臨時代理公使 牧野外務大臣宛(電報)

平和殿寄贈綸錦發送期日問合ノ件(一)

五月十八日 前二、三〇 本省着 海牙發

第五号 牧野外務大臣 信夫代理公使

蘭國駐劄信夫臨時代理公使  
内田外務大臣宛

平和殿維持費分担異存ナキ旨声明ノ件

第十一章 記念平和殿ノ建設 五百一 五百二

五三三 大正三年五月三十日 蘭國駐劄信夫臨時代理公使  
ヨリ  
牧野外務大臣宛（電報）

前同件（二）

五月廿二日 前一〇、一六 海牙發  
本省着

信夫代理公使

第七号

拙電第五号ニ閲シ昨年二月十五日附送第三号貴信ノ御趣旨  
ハ當時先方ヘ通知シ置キタル處平和殿ノ開殿式來ル八月二  
十八日ヲ以テ舉行セラル、ニ付出来得ヘクンハ其前飾附ヲ  
濟マサセタシトノ由ニテ綴錦速達方ニ付特ニ帝国政府ノ御  
配慮ヲ煩ハシクキ旨依頼アリ工事進行上ノ都合モアル様子  
ニ付至急何分ノ御回訓アリタシ

五三四

大正三年五月三十日

牧野外務大臣ヨリ  
蘭國駐劄信夫臨時代理公使  
宛（電報）

綴錦發送ニ閲シ回答ノ件

五月廿三日 前一一、四〇発

蘭國 信夫臨時代理公使宛

大臣

使ヨリ電報有之候ニ付テハ之レガ送付ニハ当地ヨリ浦潮迄  
約一週間ト見積候トモ更ニ浦潮ヨリ海牙遠速達便ニテ約廿  
五日ヲ要シ併セテ一ヶ月余ヲ要シ候趣ニ付兼テ御話有之候  
一般展覽之件ハ最初注文ノ分ノミニ止メ追加注文ノ分出來  
次第遲クモ七月廿日以前全部取纏メ當地發送之事ニ致度候  
間其御舍ニテ豫メ諸事御手配置相成候様致度為念此段申進  
候 敬具

七月廿九日  
阿部尊台 待史 川島甚兵衛

註 綴錦説明書ニヨレバ本製作ハ川島甚兵衛二代ニ

亘ル出精ニシテ五箇年ノ作業延技工四万八千六

百余人ト記サレタリ

原図ハ菊地芳文及其高弟山田耕雲ノ筆ニナル而

シテ製作図様幅員左ノ如シ

(1) 満開ノ藤花ニ鳩及小鳥ヲ配シタル図

(2) 満開ノ藤花ト群鳩ノ図

同右寸法

(3) 満開タル桜花ノ下ニ躑躅花及鳩ヲ配シタル

堅四米突五〇珊瑚四米突八〇珊瑚

(4) 珊瑚漫タル桜花満開ノ木蓮ノ下ニ羽翼ヲ伸張

幸甚と奉存候右和國本邦公使館へ豫め御申遣置被下候様偏  
し奉深謝候御陰を以て過般完納不日平和殿に我美術工芸之  
精華を發揮可致事と奉存候落成式之前後には定めし各新聞  
紙及雑誌上に於て之が批評掲載可致事と存候に就而是乍恐  
縮此等は凡て此方に御廻付被成下候様御取計置被下候はゞ  
幸甚と奉存候右和國本邦公使館へ豫め御申遣置被下候様偏

貴電第五号ニ閲シ綴錦ハ西比利亜便ニテ七月廿日頃發送ノ  
見込ナリ

五三五 大正三年五月二十四日

清水会計課長ヨリ  
川島甚兵衛宛

綴錦製作ニ閲スル件

大正二年五月廿四日達済

京都西陣 川島甚兵衛宛

清水会計課長

拝啓陳者綴錦製織出來時期ニ閲スル本月廿一日附御返書委  
細拝承致候右ニ依レバ最初注文ノ分ハ西三日中ニ完成本月  
廿八、九日頃迄ニ、追加注文ノ分ハ七月十日頃出來同十四、  
十五日頃迄ニ当地著ノ御豫定ニ有之候趣猶追書ヲ以テ天覽ノ  
義可相叶哉御尋越之処右ハ上奏手続未了之処目下聖上陛下  
ニハ御承知之通御不例ニ被為在候ニ付テハ本品發送迄ニ御  
希望通天覽相仰キ得ベキ哉否未定ニ有之候然ル處平和宮殿  
ノ開殿式モ來ル八月廿八日ヲ以テ舉行セラル、ニ付可成其  
前飾附ヲ濟マサセ度シトノ由ニテ速達方帝国政府ノ配慮  
ヲ煩ハシ度旨先方ヨリ依頼アリタル趣在蘭信夫臨時代理公

五三六 大正三年七月三十九日

川島甚兵衛ヨリ  
阿部政務局長宛

綴錦出来上リニ付挨拶ノ件

同右寸法

(5) 満開ノ桐花ノ下ニ咲キ捕ヒタル牡丹ト小鳥

トヲ配シタル図

堅四米突五〇珊瑚幅一米突七〇珊瑚

(6) 満開ノ木蓮及墨栗ノ花ニ白雉ヲ配シタル図

同右寸法

堅四米突五〇珊瑚幅一米突七〇珊瑚

窓上装飾用

(7) 桜、杉、柏、木蓮等ノ新緑滴ル様ヲ表ヘシタル図

堅八三三三「ヨリ」米突幅三米突二六珊瑚一枚

堅八三三三「ヨリ」米突幅七米突六六珊瑚一枚

因ニ右原図ハ明治四十四年秋季文部省美術展覽会ニ出品セラレタリ

公第五一号

八月廿一日接致

大正二年七月二十九日

在蘭 臨時代理公使 信夫淳平(印)

外務次官 松井慶四郎殿

客月十六日附送第四七号御通牒ニ係ル帝国政府ヨリ当地平和殿ニ寄贈ノ綴錦壁掛最初契約六枚分ハ昨二十八日当地着二十九日梱包ノ儘平和殿ニ送リ本官ト先方係員ト立会開荷候處内地発送前ニ於ケル現品ノ模様書無之候為果シテ寸毫モ異状無之ヤ否ヤハ本官ニ於テ明確ニ声明致兼候得共梱包ハ極メテ完全ノ状態ニ有之且現品モ一応点検致シタル処ニテハ何等異状無之モノト認メ候ニ付即チ本官ヨリ公文ヲ添ヘテ即座現品ヲ先方ニ引渡シ申候

尙本綴錦ヲ一閱シタル先方掛員ハ孰レモ其ノ美麗且精巧ヲ尽セルニ対シ賞嘆措カス蓋シ列国寄贈品中ノ白眉タルヲ失ハサルベシト申居候ノミナラズ之ヲ据付タル場所ハ平和殿ノ階上正殿ノ大広間ニシテ天井ノ結構、欄間ノ彫刻等ト配合極メテ良好ナルモノ、如ク全部飾付済ノ上ハ更ニ一段ノ光彩ヲ加ヘ確ニ本邦美術ノ粹ヲ抜クモノトシテ中外ノ賞讃ヲ博スルコト疑ナシト被認候

右不取敢及報告候 敬具  
尙本綴錦ヲ一閱シタル先方掛員ハ孰レモ其ノ美麗且精巧ヲ尽セルニ対シ賞嘆措カス蓋シ列国寄贈品中ノ白眉タルヲ失ハサルベシト申居候ノミナラズ之ヲ据付タル場所ハ平和殿ノ階上正殿ノ大広間ニシテ天井ノ結構、欄間ノ彫刻等ト配合極メテ良好ナルモノ、如ク全部飾付済ノ上ハ更ニ一段ノ光彩ヲ加ヘ確ニ本邦美術ノ粹ヲ抜クモノトシテ中外ノ賞讃ヲ博スルコト疑ナシト被認候

H.I.I.T 大正二年七月二十九日

松井外務次官宛

平和殿寄贈綴錦着荷ノ件

附記 「カーネギー」基金委員長挨拶(1)

(1)

註 尚右寄贈第一回発送ノ綴錦三枚ハ八月十五日海牙着仏文説明書と共に直ニ先方へ引渡シタル

報告アリ

次ニ先方受領挨拶状写附記バ

ront l'attention générale comme un produit merveilleux de l'art de Votre pays.  
Agréez, Monsieur le Chargé d'Affaires, l'expression de mes sentiments de considération distinguée.

(signé) V. Karnebeck.

Président de la Fondation Carnegie.

Monsieur Shinohu,

Charge d'Affaires du Japon.

(右訳文)

La Haye, 31 juillet 1913.  
「カルネギー」財团委員長

アーネスト・カルネギー

日本國 代理公使 信夫淳平貴下

以書翰啓上致候殿ハ貴国政府ヨリ平和殿ニ寄贈之綴錦ヲ適当ノ時期ニ到着候様御取計ニ相成候貴下之御尽力ヲ拝謝致候

開函1見タル分ニテヤ既ニ其ノ美麗ナルニ感嘆致候平和殿裝飾品中最上品ナルモノノ一タルヘキ右ノ如キ実ニ壯麗ナル寄贈品ニ対スル深謝ノ意ヲ帝国政府へ御伝達相成度此設不取敢責下」御依頼致候石綴錦ハ日本美術ノ傑作トシテ

Je Vous remercie de toute la peine que Vous avez prise pour nous faire parvenir à temps les tentures destinées au Palais de la paix.

Notre Comité a déjà pu admirer celles qui ont été déballées, et je ne veux pas tarder à Vous prier d'être auprès du Gouvernement Impérial l'interprète de notre vive reconnaissance de ce don vraiment magnifique fait au Palais de la Paix dont il sera un des plus beaux ornements. Sans nul doute ces tentures attire-

(右訳文)

千九百十三年八月十五日海牙ニ於テ

(11)

(Copie)

Bestuur  
der

Carnegie-Stichting.

La Haye, 15 août 1913.

Monseigneur le Chargé d'Affaires,

J'ai l'honneur de Vous accuser la réception des trois tentures destinées au Palais de la Paix, dont Vous m'annoncez l'envoi par Votre lettre d'aujourd'hui.

Nous aurons soin de distribuer les exemplaires de la notice explicative comme Vous le désirez.

En renouvelant nos remerciements pour ce produit merveilleux de l'art japonais, je Vous prie d'agrément l'assurance de ma considération distinguée.

(signé) V. Karnebeck.

Président de la Fondation Carnegie.

Monsieur Shinobu,

Chargeé d'Affairs du Japon.

三三八 大正二年八月三日 蘭國駐劄信夫臨時代理公使  
牧野外務大臣宛

海牙記念平和殿落成式舉行ノ件

大正二年八月二十八日

九月十九日奉報

在蘭 臨時代理公使 信夫淳平(印)

外務大臣男爵 牧野伸顯殿

海牙平和殿ハ豫報ノ如ク本日ヲ以テ盛大ナル開殿式ヲ舉行

セリ蘭國皇帝陛下皇太后陛下皇配殿下ハ定刻ハ臨御蘭國內閣大臣以下高等有司、兩院議員各国外交官(但各國公使館附武官ノ特)招待ヲ受ケズ随ツテ一人ノ參列者ナカリシハ注意スベシ)仲裁々判所裁判官、特ニ來蘭ノ「カーネギー」夫妻其ノ他内外貴女紳士孰レモ大礼服若クハ正装ニテ參列シ總員約四百名ト算セラル式ハ「カーネギー」基本団委員長フアン・カルネベヨク氏ノ莊重ナル仏語演説ニ始マリ同委員長ヨリノ仲裁々判所常設評議員議長ノ本殿引渡ノ形(正門ノ鍵ヲ手交ス)中シ同議長ノ資格ニ於テ蘭国外務大臣フアン・スキンドレン氏ノ右引継ノ仏語演説ニ終リ之ヲ挾ムニ國歌及平和ニ因メル唱歌數番ノ奏吹ヲ以テシ極メテ嚴肅ノ間ニ豫定ノ次第ヲ了ヘリ右両氏ノ演説要領ハ不取敢原文ノ儘別紙ノ通高覽ニ供ス

抑モ本殿ハ去一八九九年ノ第一回平和會議ニ於テ決定セラタル海牙ニ常設仲裁々判所ヲ設置スルノ建議ニ基キ一九〇一年「カーネギー」氏ヨリ該裁判所ニ圖書館一棟ヲ寄贈セントノ申出アルリ至リシガ此ノ申出ハ翌一九〇三年更ニ形ヲ変ヘ常設仲裁々判所ノ法廷及所屬圖書館ヲ海牙ニ建築シ及維持スルノ費用トシテ同氏ヨリ米貨百五十萬弗ヲ寄贈スルコトハナリシニ由リ蘭國政府ハ茲ニ其ノ施設ノ任ニ當

以書翰啓上致候陳ハ本日附貴翰ヲ以テ御通知相成候平和殿御寄贈之綴錦三枚領收取候説明書ハ御来示之通夫々配布方取計可申候右日本工芸ノ傑作品ニ対シ重テ茲ニ謝意表彰旁貴下ニ向テ敬意ヲ致シ候 敬具

日本国 代理公使 信夫淳平貴下  
「カーネギー」財团委員長  
ヴァード・カルネベック

獨逸 正面鉄門

米國 大階段下据付大理石及青銅製肖像若干

亞爾然丁	廊下据付塑像若干
塙太利	青銅水晶入高燭台六個
匈牙利	陶器製大花瓶六個
白耳義	正面玄関青銅扉
伯刺西爾	常設評議員会室嵌板（紅木及緞木）
支那	花瓶四個
丁抹	陶器製庭園噴水用具
佛蘭西	絵画及「ゴブラン」壁掛
英吉利	仲裁々判所大法廷窓肖像入飾大硝子四組
濠洲	常設評議員会議長用机
希臘	大理石腰掛
ハイチ	書記室家具
伊太利	迴廊大理石若干
墨西哥	玄関先花崗石
諾威	常設評議員会室壁掛綴錦大小九枚
和蘭	（平和殿全敷地 仲裁々判所法廷壁画 戸及嵌板用木材ノ大部分 蘭領植民地 海牙市 大理石大階段）

羅馬尼 毛氈四枚  
露西亞 碧玉製大花瓶  
サン・サルヴァドール  
書記室嵌板

瑞西典 壁上大時計  
土耳其 大毛氈

土耳其 大毛氈  
瑞西 塔上大時計

我国寄贈品タル綴錦ハ階上ノ正殿トモ称スベキ常設評議員会用ノ大広間ノ四壁ヲ飾ルモノニシテ伯刺西爾國寄贈ノ天井及欄間ノ紅縞木材トノ色合其ノ他ノ調和極メ良好ナルモノハ如ク確ニ各国寄贈品中ノ白眉トシテ好評嘆々タリ本日開殿式ノ終レル後蘭國皇帝陛下ニハ殿内各室御巡視ノ砌同室ニ於テ綴錦ノ前ニ数分間玉歩ヲ留メサセ給ヒ御先導ノ委員長ニ向ハレ種々御下問ヲ賜フノ御様子ナリト本官數步ヲ隔テ、親シク拝シ奉リシガ其ノ際陛下ニハ近侍ノ有司ヲ顧ミ給フテ大ニ本邦美術ノ精妙巧致ヲ賞嘆セラレ感称御斜ナラザリシト後刻洩承ヘリタリ  
此ノ開殿式ヲ機トシ蘭國皇帝陛下ニハ「カーネギー」氏及「ファン、カルネベーク」氏ニ各「オランヂ、ナッサウ」勲章大綬章ヲ賜ヒ其ノ他同殿圖案者同建築主任技師以下補ナラザリシト後刻洩承ヘリタリ

追テ平和殿ノ写真一葉御参考迄添付致候  
註 附屬書類省略

五三九 大正三年九月十九日 川島甚兵衛宛

（半公信）  
綴錦製作者ニ謝意伝達ノ件

曩キニ帝國政府ヨリ在海牙平和宮殿ニ寄贈ノ綴錦製作方貴殿ニ嘱托致候處期限通り製作ヲ了シ其成蹟頗フル良好ニシテ広ク内外人ノ賞讃ヲ博シ本邦美術ノ精華ヲ發揮シ以テ斯道ニ貢献スル処歎ナカラザルハ本大臣ノ最モ満足スル所ニ有之候右申進候 不具

大正二年九月十九日

外務大臣男爵 牧野伸顕  
京都西陣 川島甚兵衛殿

伯刺西爾國練習艦「ベンチャミン、コンスタンント」号ハ本日ノ祝意ヲ表形スル為メ特ニ「アムステルダム」ニ入港セリ  
右及報告候 敬具